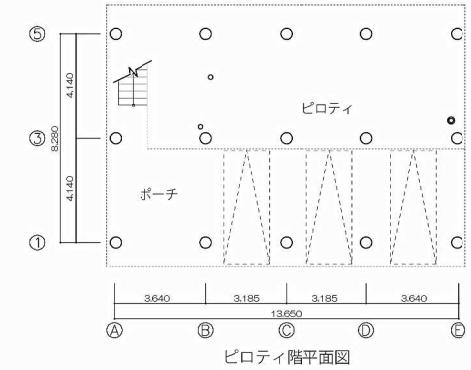
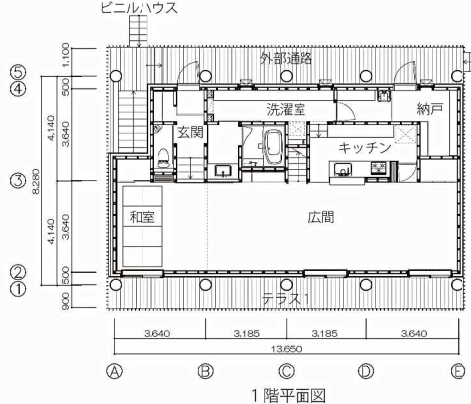
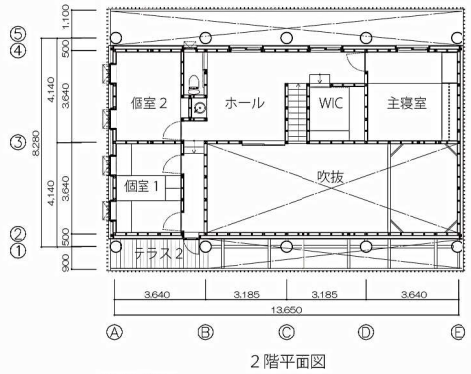


掘立柱の家

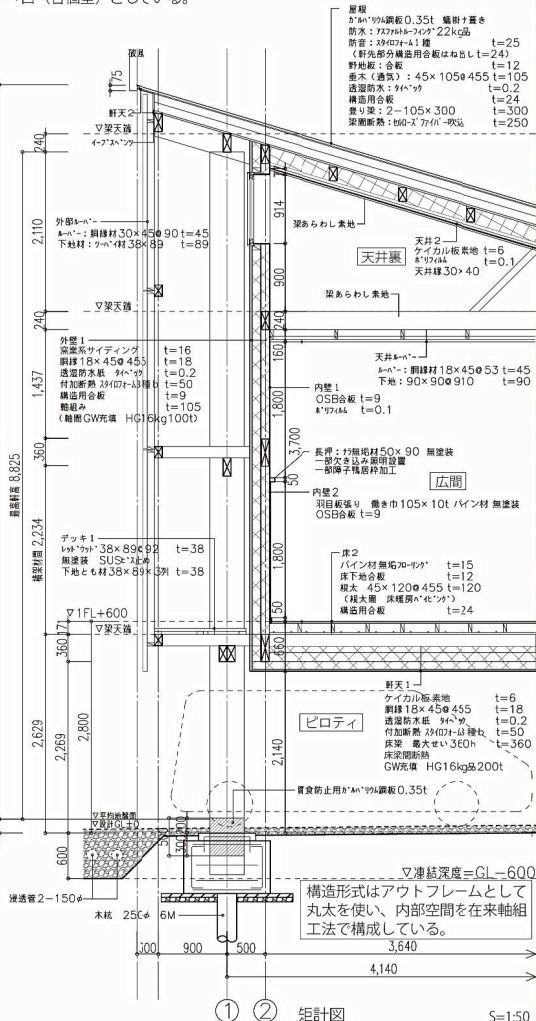
この住宅は、北海道岩見沢市栗沢町にて、5代目となる農家の住宅である。この土地は、その昔、原生林が生い茂る山林であった。そこに施主の先祖が瀬戸内海に浮かぶ小島（現広島県福山市横島）より集団で入植し、極寒の中、害獣などの危険にも晒されながら開墾していった歴史がある。今ある豊かな田園風景はこうした先祖の苦労の上にできあがったということを実感したいと考え設計を始めた。

そこで、当時の原風景の「象徴」として丸太を使いたいと漠然と思った。そして、その力強い丸太の上に木漏れ日のような光溢れる空間をつくり、まるで原生林の中で生活しているような住宅とすることで、先祖への感謝を忘れず後世に先祖の思いを、住宅を通して伝えていくことができるのではないかと考えた。

■配置計画：敷地は広大ではあるが、宅地として使える部分は限られているため、既存の母屋と納屋2の間に農地からの動線を確保しつつ、前庭（作業スペース）を囲む形で配置された。前庭側からは車を入れるため、カーポートが配置され、雪が農地側に落ちるよう片流れの屋根となった。また、南風が強く、カーポートが埃溜りとなるため、丸太で全体を持ち上げてピロティとし、風が抜ける計画とした。



■平面計画：農家特有の広いバックスペースと広間、そして個室が必要となる。バックスペースは農地側との利便性を考え、可能な限り低いレベルとした。そして、階段を少し上げると広間、2階に個室というレイアウトになっている。こうすることで物理的な清潔さ、そしてプライベート性をレベルが上がることに着していくことを意図している。またレベルだけでなく壁のテクスチャーもレベルが上がることに茶（バックヤード）→白木（広間）→白（個室）としている。



建築用途：専用住宅 構造形式：木造2階建 丸太アウトフレーム工法
 建築面積：123.06㎡ 延べ面積：198.15㎡

